

2026 年 9 月 23 日 改訂

文藝さくらす 募集要項

1. 対象者

市内外問わずどなたでも

2. 作品の投稿について

(ア) 投稿できるジャンル：文字がメインの作品 例) 小説、エッセイ、評論

※画像が入る場合は 1 ページ 1 枚まで (白黒のみ可)。

挿入部分の細かな指定もご記載ください。

(イ) 文字数上限：10000 文字程度 (タイトル・あとがき除く) ※文字数下限はありません。

(ウ) 備考：一回の掲載につき一作品のみとさせていただきます。

3. 投稿締切

2026 年 11 月 29 日 (日)

4. 投稿方法

- ・手書き原稿の場合：桜川市生涯学習センターさくらす 1 階総合案内にてご提出ください。
- ・下記メールアドレス宛に以下の要領でお送りください。

メールアドレス：sakusakusakuras@kbf.biglobe.ne.jp (このアドレスは投稿専用です)

原稿送付要領

件名：「文藝さくらす」原稿応募

本文：①氏名・ペンネーム

②作品タイトル

③作品のジャンル (小説・評論・詩・随筆等)

④連絡先電話番号

添付：①作品データ (Word)

・本文原稿

・あとがき (100 文字程度)

②著者近影 (jpg.等の画像データ) ※イラストも可

※作品が完成してからの投稿をお願いいたします。

※こちらで用意したフォーマットに当てはめて編集します。段落やページを跨ぐ等、文章にこだわりたい方は事前にフォーマットを送付しますのでお電話でお申し出ください。

5. 発行について

(ア) 発行予定日

1 月下旬～2 月上旬

(イ) 頒布場所

桜川市生涯学習センター さくらす

6. 注意事項

- ・公序良俗に反する作品など、図書館の文芸誌にふさわしくないと判断された場合、掲載を見送らせていただきます。
- ・生成 AI による創作作品の投稿はできません。アイデア出しなど、直接の創作に関わらない場合は使用可能です。

※生成 AI で書いた文章が含まれる可能性があるとして判断された場合には、事実確認をする場合があります。

- ・上記に該当しない全ての作品を掲載いたしますが、ページ数の都合で一誌に載せられない場合は、次号の掲載となる可能性があります。その場合は事前にご連絡させていただきます。
- ・著作権は著作者に帰属します。投稿いただいた作品は、本誌への掲載および複製、販売に同意しているものとします。
- ・原稿料は原則発生しません。

7. 掲載例

『ノマディアが残された 王城夕紀』
書評 ひまわりママ

全くノーマークの著者だった。
私はSFが好きだが、最近のSFはあまりフィクションと感ぜない。むしろ現実の方がフィクションにみえてくるように感じる。
本書は、移民・難民（作中で「動民」とされる）と戦いを語る。
何がすれ違っているかという、動民は諸事情により動民になったわけで、好き好んでさらけ出しているわけでもない。命を奪われる危険と直面しながら、ただ生きることを目指している。かたや、国は、自分たちの領土に土足で入り込んでくる動民たちにプレッシャーを感じている。自分たちの居場所が奪われるのではないかと、いう暖心暗鬼だ。それはナショナリズムと結びついて、排斥へと向かう。どこへ行っても、いつまでたっても動民の安住の地は与えられない。

文藝くらぶ 新刊号

分断の果てに、何が起ころうのだろうか？
本書を読んで、非常に衝撃を受けたのだが、読んだタイミングも良かった。左記二つの作品に、一か月ほど前に出会ったのである。
『プロバガンダ戦争 分断される世界とメディア』 内藤正典 集英社新書
戦争、紛争、難民・移民排斥、パンデミック……世界は様々な問題を抱えているが、それをどう捉えるかは、国・地域や立場によって変わる。メディアも国の意向を忖度してプロバガンダ化することもあるだろう。日本のメディアはイスラム社会の情勢をほとんど報道しない。「ガザ」という言葉はよく聞くけど、世界地図のどのあたりのことかすら、私たちは把握していない。アメリカやヨーロッパ拠点の報道しか受け取らない私たちは、ヨーロッパが、なんとなく不安だから、自国への難民受け入れを拒否していることを、知らないのだ。右記の『プロバガンダ戦争』は各国メディアがどんな報道をしていたかを追うことで、イスラム社会がどれ

ほど無理解にさらされてきたかを語っている。難民が生まれる原因となった各地の紛争も、列強各国の経済戦争（武器の輸出など）の代理戦争ではないのか？ という側面があり、そもそも責任は欧米にあるんじゃないの？ という難民側の主張も紹介している。世界一迅速で中立なメディアが「アルジャジーラ」であることも教えてくれた。
※アルジャジーラは、アラビア語と英語でニュース等を二十四時間放送している衛星テレビ局。本社はカタールのドーハ。日本でも放映を見ることが出来る。
もうひとつのキーワードは、「先設」である。「はたらく細胞」というコミックがあるが、こちらの実写映画を見ていた。主な登場人物として白血球やキラーT細胞やマクロファージ先生がいるが、彼らの働きは体内に入ってきた異物を取り除くことである。では、自己と他者を、何で見分ける？
『ノマディア』では、既存の「国」の中に「ガリデン」と呼ばれる独立自治単位が、自然発生的に生まれている。国が弱体化し、もろもろ制御できなくなっ

いであるが、その様はまるで細胞のようだ。だが、動民にとつてはとりあえずでも希望が持てる場所である。流れ込む、国は癌であるガリデンを潰そうとする。癌は当然抵抗する。
民族も肌の色も言葉も入り混じり、地域のアイデンティティを拒めない。では、誰かを排斥する時、何を目標にすれば良いのだろうか？
『ノマディアが残された』は、巻末の参考文献リストがめっちゃたくさん挙げてあります。それだけ著者が、生み出すのに苦しんだということでしょう。この参考文献たちにも興味深い本がたくさんあって、また読書本が増えます。

今ご紹介した本
『ノマディアが残された』王城夕紀／著 中央公論新社（二〇二四）
『プロバガンダ戦争 分断される世界とメディア』内藤正典／著 集英社新書（二〇二〇）

ひまわりママ

8. 問い合わせ先

桜川市立図書館

電話番号：0296-71-7707

担当者：鈴木、柴沼